

横浜市立菅田中学校 令和3年度 学校評価報告書

(総括 A：十分達成 B：概ね達成 C：努力必要 D：改善必要)

重点取組分野	3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①小中の系統性を大切に、さらに発展的な活動に進んでいくような学習指導の工夫をする。 ②資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。 ③生徒が進んで学習する習慣を身に付けられるような課題を提示し、家庭学習の機会を増やす。 ④単元題材計画の作成を通して学習評価の研究を進める。	①小中の連携を深め、情報を共有することによって生徒の学びの系統性を確認することができた。 ②1回のみではあったが、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善を主題に、研究授業を計画し授業改善を進めることができた。 ③各教科工夫をして課題の提示を行っているが、生徒が自ら進んで学習する習慣作りへのアプローチには課題が残る。 ④各教科の単元計画を作成し、ファイリングした。学習評価の研究については、研究授業や授業後の講演を通してより理解を深めることができた。	B
豊かな心	①道徳授業の中では、中心主題とねらいに沿った指導案の工夫を行うとともに、授業では個々の生徒の考えや相互の考えを発表しあう場面を意図して設定し、より広い考え方や視点に触れ、道徳的価値観を高めていけるように指導を工夫・改善を図る。 ②各授業をはじめ、さまざまな学校行事を通じて、学校教育目標に照らした道徳的な価値観を追求した指導・助言を行い、学級や学年をはじめ、日常生活の実践に結び付けられるように努める。 ③人権・国際理解についての諸活動を通じて、適切な人権意識の育成や世界との様々ななかかわり方について啓発していく。また、その一助として、読書活動を通じて、一層の情操教育を図る。 ④家庭や地域の協力を仰ぎ、円滑な人間関係の構築に不可欠な「あいさつ」の励行を継続していく。	①ICTやホワイトボードの活用などを通して、工夫をしながらねらいに沿った授業を行うことができた。あわせて、いじめをなくすための道徳的な授業を今後検討していきたい。 ②限られた中ではあったが、各種行事を通して自ら進んで取り組む姿勢やまじい人間関係を作る力の育成に努めることができた。 ③SDGsの学習や人権の木の作成などの活動を通して、人権意識の育成や世界との様々ななかかわり方について、自分事として考えようとする態度の育成に取り組むことができた。 ④あいさつ運動の期間にかかわらず、いつでもあいさつできる生徒の育成に取り組むことができた。	B
健やかな体	①保健体育科においては、コロナ禍において運動に関する条件にも制限がある中で、新体力テストの結果を活用し、健康の増進及び体力の向上を感染症に留意しながら親しみやすい運動を中心に検討し実施していく。 ②昼休みなどを利用して、自発的に運動の楽しさを味わいながら、健康の増進や体力の向上を図れるように啓発をしていく。 ③家庭科を中心に食育に関する知識を深化させ、日常生活におけるバランスのとれた食生活を実践するように指導・助言をしていく。	①グラウンドでは縄跳びを中心に補強運動を行い、体育館では補強運動を導入を行った。無理にやらせることよりも自発的に目標を決めて行うよう促した。 ②昼休みのグラウンドでの活動は多くの生徒にボールが歩き渡るように運営した。遊び方には課題があるが、自発的な部分では十分な活動であった ③毎日の昼放送で食に関する知識を紹介することで日々の食生活に興味を持てるよう取り組むことができた。また家庭科の授業でバランスのとれた食生活の実践を促すことができた。	B
特別活動	①様々な集団活動を含む学級活動での役割を果たし多様な人々と協働して主体的に取り組む力や、人間関係を形成する力を育てる。 ②生徒会活動を通して主体的に課題を見だし解決するために話し合い、よりよい学校作りに参画するリーダーを育てる。 ③キャリア・パスポートの取組を実施し自己を振り返り、新たな発見や目標を決め、進路設計や夢の実現に向かう力を育てる。	①行事や学年集会などを通して、学級の中でそれぞれの役割を果たし、主体的に取り組む力や人間関係を形成するサポートができた。 ②生徒会本部役員を中心に委員会活動やリーダーズ研修会などを通して、リーダー育成に助んだ。また学校行事や服装検定などよりよい学校作りに向けた取組ができた。 ③学期末に各学年でキャリア・パスポートを活用し、自己の振り返りを行った。活用時期において、今後検討する余地がある。	A
総合・キャリア教育	①校外学習の事前学習など探求的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識技能を身につけるとともに、級友との関わりの中で様々な役割を担いながら生活していることを知る態度を育てる。 ②職業（職場）体験や職業インタビュー、保育体験を通して働く人の思いや、他者との協働の大切さを学び、新たな視点をもつことで、他者と協働的に問題に向かう態度を育てる。 ③自己の進路や将来を考える学習を通して、自己の能力や特性に目を向け、悩みや問題を自ら	①コロナ禍で、様々な行事が見送られる中、校外学習も中止が相次いだ。事前学習は実現を目指して取り組んだ。その際の指導案における課題設定が探求的とは言えず、調べ学習とその発表に止まっていた点が今後の課題である。 ②職場・保育体験が中止になる中、今年度新たに「私たちが作る持続可能な世界」の取組を設定し、探求的な学習を開始した。SDGsについては他教科での取組も相まって自らが社会に働きかけることで持続可能な社会の実現に近くという意識を育てることができた。③自己の進路や将来を考える学習を通して、自己の能力や特性に目を向け、悩みや問題を自ら切り開こうとする態度を育てることができた。	B
安全教育	①年3回避難訓練を実施し、職員の初動対応と生徒の避難経路・方法の確認する。 ②生徒指導部が作成した地区名簿をもとに、生徒の拠点校と地区班を確認する。 ③防災デイを通して、関係機関、小学校、地域と連携し、防災意識を高める。 ④随時情報を収集し、感染症対策を職員・生徒に周知する。	①職員の初動対応と生徒の避難経路・方法の確認するだけでなく、緊急事態時の各指導部職員の役割分担を再確認し職員の意識を高めた。②コロナ感染症対策を充分にして、生徒指導部が作成した地区名簿をもとに生徒の拠点校と地区班を確認した。③内容の精選や方法の検討をして準備していた「防災デイ」はコロナ禍で中止となってしまったが、来年度につなげる準備活動ができた。④随時情報を収集し、感染症対策を職員・生徒に周知し、学校保健委員会では対策の一つとして「食育一免疫力の上がる食事について考えよう」をテーマにGoogle Meetを使って全校に向けてオンラインを開催しました。	B
ICT教育	① 1人1台端末の環境を整備し、生徒がICTを適切・安全に使いこなすことができるようネットリテラシーなどの情報活用能力を育成する。また、その成果を年に1回以上の意識調査で確かめる。 ② 生徒が端末を1日に1度は使用できるように活用の推進を行い、様々な教科の中で主体的・協働的に学びが深められるようとする。	① 一人一台端末環境の整備を行い、日常的な活用を行うことができた。使用方法についての検討や注意喚起を継続して行った。3年生対象に意識調査を行ったが、本校における身につけさせたい情報活用能力を決定し、次年度以降継続的に行うための調査項目の検討が必要である。② 日常的な活用を行い、分散登校時には端末の持ち帰りをし遠隔授業を行えるよう整備をした。様々な教科でグループワークでの思考ツールの活用や、プレゼンテーションソフトを用いた授業が行われた。③ 年度初めの研修会をはじめ、端末持ち帰りに係る研修等、必要と考えられる時期に研修を行った。	A
特別支援教育	①特別に支援を必要とする生徒の情報収集し、月1回の委員会で情報共有、具体的・効果的な指導支援方法の検討を行う。 ②全職員対象の校内研修を年1回以上行う。 ③キャベツルームを設置し全職員で対応する。 ④個別的教育支援計画・指導計画の作成、援助。	①管理職、学年主任、専任、養護教諭、SCと月1回の委員会で情報共有し、子どもたちについて話し合う機会を作ることができた。また、問題解決型ケース会議を行い指導支援方法の検討をした。②過級指導教室から講師をお招きし、研修を行った。「過級指導教室」の様子や先生方が実践されている内容を知り、本校でも活かしていく。③全職員、担当する時間をしっかり意識対応したことで、キャベツルームに定期的に通える生徒が増えた。④必要な生徒の支援計画・指導計画を作成し、生徒について考える機会を作ることができた。	B
いじめへの対応	①地域訪問を年1回以上、学級担任、保護者、生徒との三者面談を年2回、学級担任と生徒との面談を年2～3回実施する。 ②生徒への信頼関係作りのために教育相談についてのアンケートや、いじめ解決のための生徒会作成アンケートを実施する。 ③いじめ防止対策委員会を月1回以上開催し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止に努める。	①必要性を感じつつも教育相談の時間設定が取れなかった。地域訪問の必要性を見直し、まとまった時間設定が難しかった教育相談の時間を確保したい。②アンケートは滞りなく行い、各クラスとの配慮ができた。生徒会作成のものは実施されなかった。来年度については、YPプログラムの研修実践を行い、いじめ防止につながる取組ができるよう計画したい。③運営委員会の時間設定で行うことができた。来年度以降継続。④道徳の授業実践を行い、いじめ防止の啓発を行うことができた。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①メンターチーム研修会を定期的に実施（年7回）初任6年目まで+後期中堅教諭研修受講者 ②年間2回の校内授業研究会の実施 ③ICT教育の推進と研修の実施 ④会議の精選とグループウェアの積極的活用 ⑤職員全員で考える業務改善の推進	①メンターチーム研修会については、ある程度経験のある参加者が講師を担当したり、演習形式を取り入れたりする方法を工夫し、充実した内容である。対象者以外の先生方にも都合が合えばぜひ参加していただきたい。②コロナ禍の中で方法を工夫して実施した。中央教育審議会が指摘しているとおり、授業研究は学校教育の質を支えるものであり、継続的に実施する必要がある。ただし、授業者や担当者への負担がかかることのないよう、準備や実施の方法を工夫していきたい。③ICT教育を推進するために必要な機器の操作方法等の研修は、OJTを通して行うことが効果的である。市教委の姿勢も確認しつつ、日常的な取組の充実を図ってきたい。④効果的な組織運営のための会議の精選と必要な情報共有の周知を図るため、引き続きグループウェア等を活用しながら進めていきたい。⑤業務改善には我々の心構えの変革が必要。「道徳課題」であることを意識し、日々の業務の中で考えていきたい。	B
ブロック内評価後の気付き	菅田の丘小学校の開校に伴い、今年度は「ブロックで育てる子ども像」に基づくブロック学校評価の見直しを行った。具体的には「ブロックで育てる子ども像」及び「昨年度までのブロック学校評価で見えてきた課題」について6つの質問項目を設定し、児童生徒・保護者・教職員のそれぞれについて同じ質問項目で実施した。 その結果、例えば新しい学習指導要領のもとで、双方向（インタラクティブ）のコミュニケーションの中で学習を進めていることの成果が表れていることや、児童生徒の自己肯定感が少しずつ向上していることが明らかになった。		
学校関係者評価	各学校の先生方がコロナ禍の厳しい状況の中で工夫していることがよく分かった。もっとこんなことをしているという内容を具体的な話を保護者や地域に紹介してほしい。取組の内容などを保護者や地域に分かりやすく伝えるにはどのようにすればよいかということが課題と考えられる。 今後も菅田中ブロックで「9年間で育てる子ども像」を大切に、しっかりと取り組んでほしい。		
中期取組目標振り返り	新しい学校教育目標のもと、今年度は具体的取組の一部を変更した。新型コロナウイルス感染症の予防や対策のため、特に学校行事等で制約のあることが多かったが、それぞれの教育活動のねらいを見定め、制約のある状況においても可能な教育活動を工夫し、生徒の資質・能力を着実に育成することができた。また、学習指導要領全面実施の年度に当たり、教職員の研修を実施して、ICTの活用も含めて各教科の授業改善を進めるとともに妥当性・信頼性のある学習評価の実施にむけて研究と実践を行った。 これらを踏まえて、本校及び菅田中ブロックとして、生徒の実態や地域の特色を生かした今後3年間の中期学校経営方針を策定していきたい。		